

地球サミット「リオ+20」報告会&アースダイアログin 京都  
2012年7月28日

## Rio+20

### 教育セクターから見た成果と課題

認定NPO法人 持続可能な開発のための教育の10年推進会議 (ESD-J)  
国際プログラムコーディネーター  
野口 扶美子 fumiko@esd-j.org




## 環境、開発、持続可能性と教育

- 1948年世界人権宣言以降の基礎教育の拡充に関する国際議論⇒成人教育、EFA、UNLD、MDGsへ
- 1972年国連人間環境会議以降の、「環境と開発」と「教育」に関する国際議論
- 80～90年代:「持続可能な開発の概念」の発展、「持続可能性のための教育」への発展
- 92年:アジェンダ21 「36章:教育・意識啓発・訓練の促進」
- 02年:ヨハネスブルグサミット
- 05年:国連・持続可能な開発のための教育の10年 (UNDESD: ~14年)

## UNDESDの目指すもの

DESDの全体を貫く目標は、持続可能な開発の原則、価値観、実践を教育と学習のあらゆる側面に組み込む ユネスコ(2005)『UNDESD国際実施計画』

⇒ 社会のあらゆる人びとが、あらゆる場で持続可能な開発について学び、よりよい未来にむけた「知」を構築し、課題を解決し、社会の仕組み・制度を変革していくプロセス。公教育だけで持続可能な開発を教える、というのは不十分。



## 成果文書における「教育」

- I. Our common vision
- II. Renewing political commitment
- III. Green economy in the context of sustainable development and poverty eradication
- IV. Institutional framework for sustainable development

**V. Framework for action and follow-up (行動とフォローアップのための枠組み)**

**A. Thematic areas and cross-sectoral issues (テーマ領域と分野横断的課題)**  
- 26課題のうちの一つが「教育」:パラ229~234

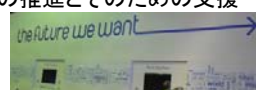
**VI. Means of implementation (実施手段)**

**C. Capacity-building (能力構築) ★要注意!**




## V. 行動とフォローアップのための枠組み～教育

- あらゆる人びとへの教育の権利、とりわけ初等教育へのアクセスの確保 (229)
- 質ある教育へのアクセスの拡充に向けた、教員養成、カリキュラム開発、ICTの強化、学校、コミュニティ、自治体間の協力の推進 (230)
- 特に若者向けのノンフォーマル教育の推進 (231)
- 教育インフラ基盤とEFA強化のための国際協力の推進 (232)
- UNDESD以降のESDの推進 (233)
- 高等教育機関におけるESDの推進 (234)
- ESD研究に向けた高等教育機関の推進とそのための支援の強化 (235)



## 再考: 持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development: ESD)

- ESDは持続可能な開発すべてに関わる: ジェンダー、先住民、企業、自治体、識字教育等の全てのテーマ、課題を横断する
- 地域コミュニティ: 地域が持続可能な開発の基盤。その核になるのが地域の人びとの力
- 地域づくりのプロセスそのものが「学び」と「教育」であり、ここにあらゆる形態の教育(公教育、生涯教育、地域活動)が統合される
- NGOの役割: 政府・国連の手の届かないところで、地域の課題解決、地域の多様な人びとのエンパワメントに直接向き合うのがNGO



## 成果と課題



- ③ 成果文書に「教育」が位置付けられている。
- ③ 国連持続可能な開発のための教育の10年 (UNDESD:2005~14年)以降の持続可能な開発のための教育(ESD)推進が明記されている。
- ③ 公教育機関、高等教育機関中心で、NGOや教育機関以外の組織による活動の視点が無い。
- ③ 教育に、地域の価値・視点(先住知、ローカルナレッジ含む)が統合されていない。
- ③ 第5章の「教育」と、第6章の「能力開発」がリンクしていない。( \* UNDESD国際実施計画では統合)

## 教育セクターって、誰？



1. 「教育」はメジャーグループでない
2. 連携・連動していない複数のESD関連グループが存在
  - ◆ UNESCO School Network、ASP Network、ProSPER.Net等  
持続可能な開発にむけた、学校教育、高等教育機関が中心  
\* 国連、政府と連動・連携
  - ◆ UN CSD Education Caucus Group  
教育、特に環境教育の視点からCSDプロセスに関し、MLで情報提供  
\* 研究者、NGO等が参加
  - ◆ Education Working Group  
成人教育国際協議会(ICAE)、アジア南太平洋成人教育協議会(ASPBAE)等、NGOが中心。ユネスコ生涯教育、万人のための教育、MDGsの視点から「実質的」な教育に関する議論を展開  
\* NGOが参加

## 構造的問題



### ESD分野が抱える課題

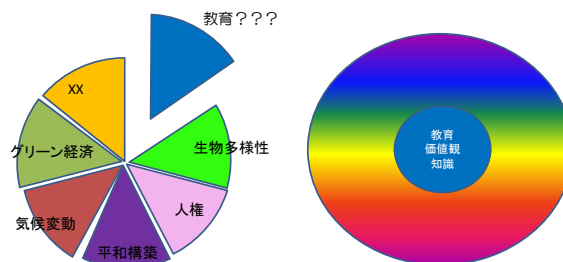
- ✓ ユネスコ、文科省の学校・高等教育機関中心の意見・ESD観が主流
- ✓ ノンフォーマル教育やキャパシティビルディングなど、公教育・高等教育(文部省)以外の取り組みがESDとしてあまり取り上げられていない

### CSDプロセスにおける市民参加

- ✓ NYに行けない組織は、成果文書案を入手できない
- ✓ Education Caucus Group、Education Working Groupは、ゼロドラフトへのインプットを提出したのみで、文書取りまとめプロセスに入りこめていない
- ✓ メジャーグループ以外の関係者が入りにくい
- ✓ 教育セクターとしての統一の見解をまとめられない

## 狭義の教育 vs 広義の教育

分野別・テーマ別アプローチから包括的・統合的アプローチへ



## 2014年 & 2015年に向けて



- アジアのNGOによるESDのネットワーク構築(2014年)
- ESDに関するNGOの国際的な連合体の可能性を探る
- SDGsの議論に、ESDを位置付けていく
- 政府、多様な関係者と共に、ESDの推進についての議論・意見形成を進める
- メジャーグループの在りかた、教育メジャーグループの検討

## ESDに関する アジアのNGOネットワーク(ANNE)

### ESD-J主催公式サイドイベント(6月18日)

ESDに関するアジアのNGOネットワーク(ANNE)からのメッセージ: 持続可能な開発に向けた地域コミュニティのエンパワーメントにおけるNGOの役割

共催: インド環境教育センター(CEE)、損保ジャパン環境財団、損保ジャパン、UN CSD Education Caucus Group

